
(3) 西新井・本木ブロック

1) ブロックの概況

- ・扇大橋下流から西新井橋までに位置する本ブロックは、左岸は扇一丁目と本木地区、右岸は隅田川に挟まれた小台一丁目と千住桜木地区となっています。
- ・荒川へのアプローチは、扇大橋、西新井橋(尾竹橋通り)と日暮里・舎人ライナーの扇大橋駅、足立小台駅からとなります。特に足立小台駅は荒川のスーパー堤防上に造られた駅で、地域住民の利用と合わせて荒川利用者の新たな玄関口となっています。
- ・古くからの住宅街である左岸本木地区は、住工混在の過密市街地で緑地の少ない地域です。
- ・尾竹橋通り沿いは近隣商業地域となっており、最も隅田川と接近する対岸は、工業専用地域、尾竹橋公園を囲んだ住居地域が続いています。
- ・河川敷は、右岸があらかわ福祉体験広場、荒川区が占用するグラウンド、千住桜木地区前の大規模自然地となっています。
- ・左岸は、扇大橋側からゴルフ練習場及び、施設利用者の駐車場、テニスコート、野球場、広場などの利用系施設、次に本木ワンド周辺の自然地があり、さらに西新井橋上流付近は地域の少年野球などに利用される広場となっています。
- ・右岸、西新井橋上流の大規模自然地は、河川敷は野草地、水際部は複雑に入り組んだ干潟状になっており、幅の広いヨシ群落が続き、野鳥の飛来や営巣も見られる自然度の高いエリアとなっています。
- ・河川敷は両岸とも全域避難場所に指定されています。
- ・震災時に荒川を復旧資機材や救援物資の輸送路として確保するため、堤防脇に緊急用河川敷道路が整備され、普段は散歩やジョギング、サイクリングなどに親しまれています。
- ・防災用緊急情報ネットワークの整備の一環として、左岸側の河川敷には光ファイバーが敷設されています。



西新井・本木ブロック付近の荒川 (14.75m～17.0km)

2) これまでの成果

〈これまでの成果〉

河川敷利用のため「サッカー場、野球場の整備」及び、施設利用者用の「駐車場の整備」が進められました。自然地の向上として右岸、千住桜木地区前や左岸本木ワンド付近の「大規模自然地の形成」、「水際線の整備」、「堤防の耐震性向上及び緩傾斜化」が、進められました。

しかし、左岸全域における「大規模自然地の形成」、右岸扇大橋下流の「芝生系広場の形成」や「船着き場の新設」、「水際線の整備」で未整備の箇所があります。

〈取り組み課題〉 ・ ・ ・ ・ 短期計画の点検結果から得られた課題 ・ ・ ・ ・

〔大規模自然地の形成〕：左岸

○扇大橋下流付近

現在、ゴルフ練習場、テニスコート、野球場、広場などと利用者用の駐車場が整備されています。利用施設的な土地利用となっています。

○本木ワンド付近

水際部のヨシ原等湿地性植物群落の保全のため、航走波対策のための木工沈床の設置が行われています。しかし、河川敷側への水辺の自然体験空間等多様な水辺環境の整備にまでは至っていません。

○西新井橋上流付近

芝生系広場的現況になっており、地域の少年野球などの場として活用されている。利用施設的な土地利用となっています。

〔大規模自然地の形成〕：右岸

水際部のヨシ原等湿地性植物群落の保全のため、航走波対策のための木工沈床の設置が行われています。しかし、河川敷側への水辺の自然体験空間等多様な水辺環境の整備にまでは至っていません。

〔芝生系広場の形成〕

右岸、扇大橋下流部のこのエリアは、自然系の野草地と、利用施設（その他）の『あらかわ福祉体験広場跡地』となっています。

〔船着き場の新設〕

右岸、扇大橋下流部の足立区の船着場については、現在、計画外となっています。

〔水際線の整備〕

左岸の本木ワンド付近から西新井橋までと、右岸の千住桜木地区前の大規模自然地の水際部には航走波対策のための木工沈床が設置されています。しかし、その他のエリアでは、従前の直壁護岸等の形態であり水際部の自然度アップを図っていく必要がある。

●1996 足立区地区計画図

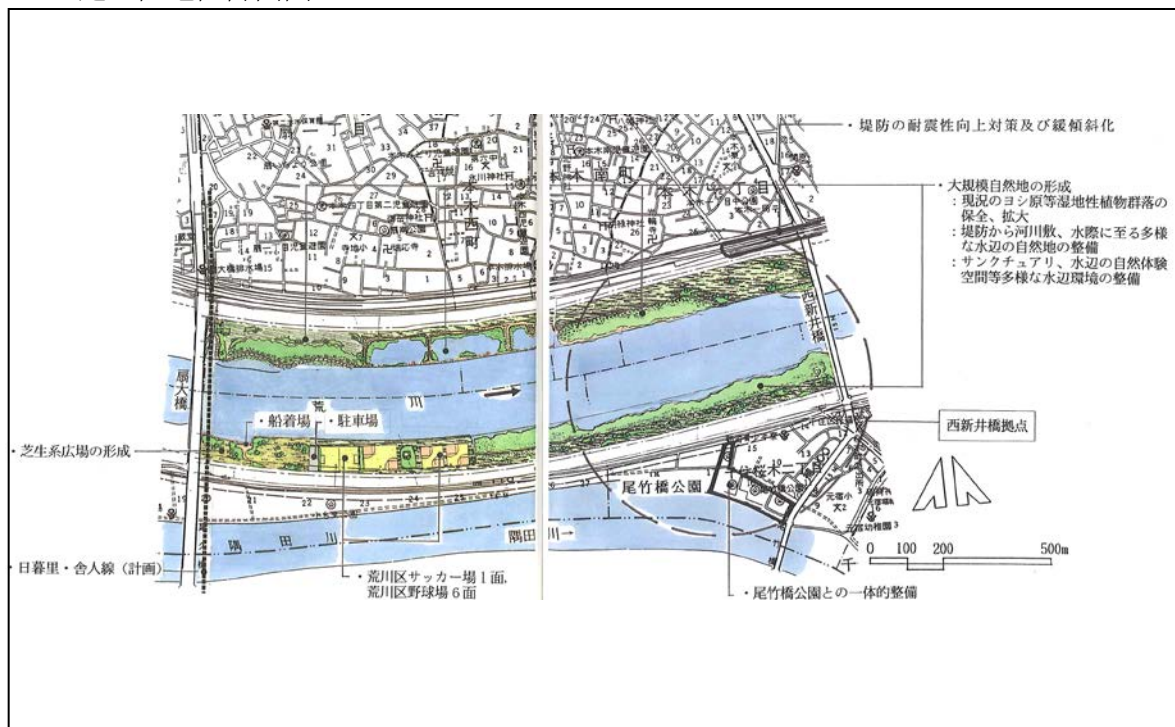
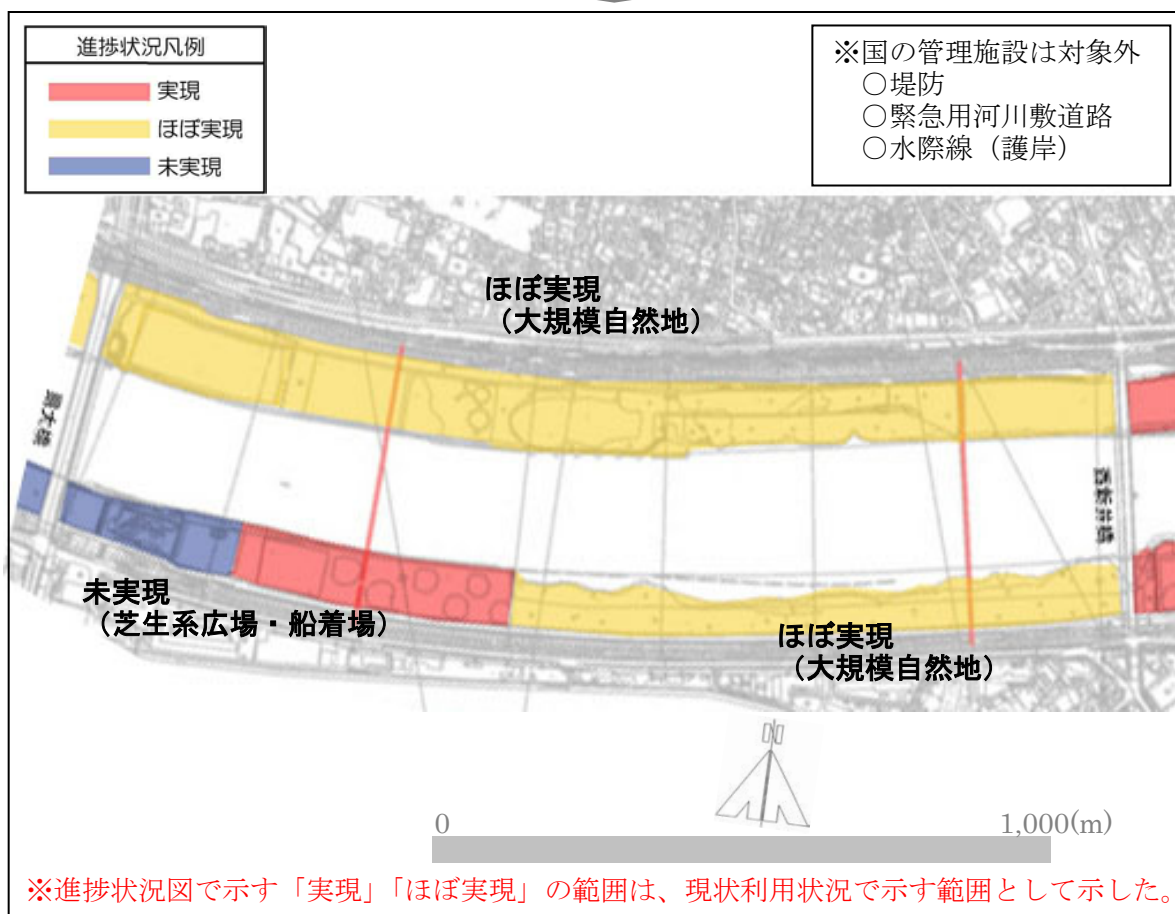


図 21 1996 足立区地区計画（西新井・本木ブロック）

●進捗状況図



※進捗状況図で示す「実現」「ほぼ実現」の範囲は、現状利用状況で示す範囲として示した。

図 22 進捗状況図（西新井・本木ブロック）

3) 新ゾーニング（2010 推進計画のゾーニング）

●推進計画 2010 のゾーニング計画図

荒川将来像計画 2010 推進計画の新たなゾーニング計画は、現状の河川敷利用現況をふまえながら、これから概ね 10 年後の荒川下流部全体の望ましい姿を想定し、河川敷を流下方向に「自然系ゾーン」、「利用系ゾーン」の 2 つに大別して、緩やかな土地利用誘導を図っていくこととします。

「自然系ゾーン」は主に自然地の適切な維持管理を前提として保全を図っていくゾーン、「利用系ゾーン」は主にスポーツグラウンドやゴルフ場、公園・緑地等の適切な利用を図っていくゾーンとします。

●西新井・本木ブロックゾーニング計画図

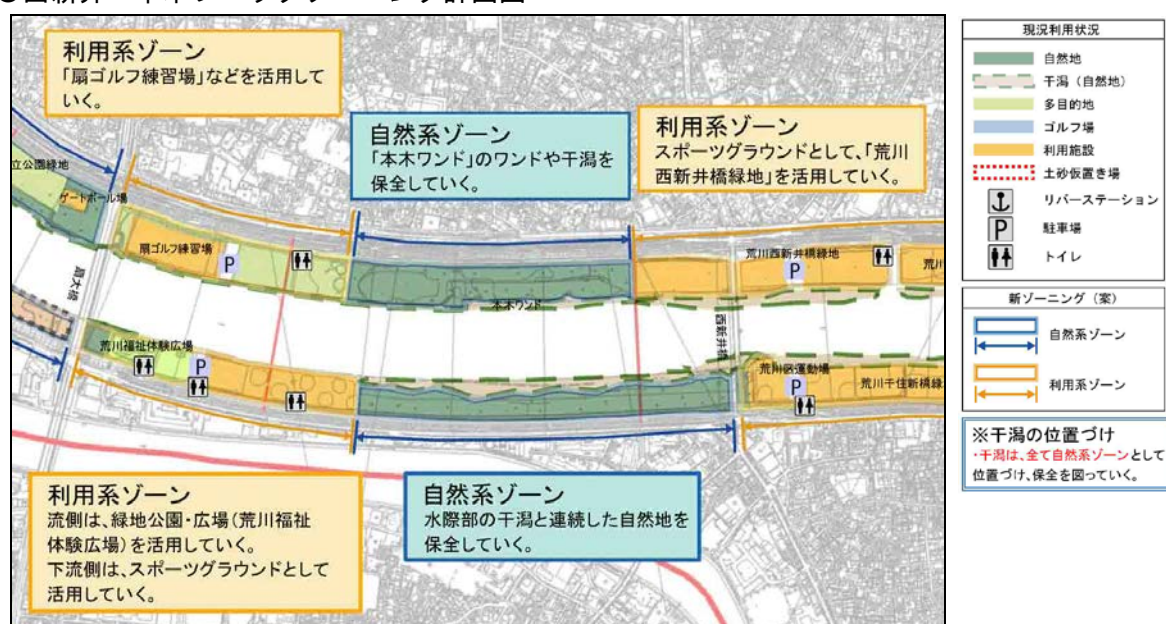


図 23 推進計画 2010 のゾーニング計画図（西新井・本木ブロック）

●1996 年計画からの主な変更点

- ・このブロック左岸は 1996 年計画では、全域を大規模自然地として位置付けていたが、現状の利用を勘案し扇大橋下流部付近と西新井橋上流部付近について、新たに利用系ゾーンとして位置付けられました。

4) ブロック別計画

〈ブロックの目標・整備方針〉

- ・利用系施設周辺の自然度向上を図るとともに、両岸の大規模自然地では水際部の自然地を保全、河川敷にも多様性のある自然地の形成を進め、自然度の高い空間を創出します。
- ・観察等自然体験の充実を図り、生息する動植物とのふれあい空間の創出を図ります。

〈ブロックの取り組み内容（目標年次：概ね 10 年後を目指します）〉

- ・現況の水際部の干潟、ヨシ原を保全し、左右岸一体となった堤防から水際に至る多様性のある規模の大きい自然拠点を形成します。
- ・水際部は生物の生息地の保護を考慮し、人為的な管理を最小限に抑え、部分的に人の利用を制限したサンクチュアリを創出します。

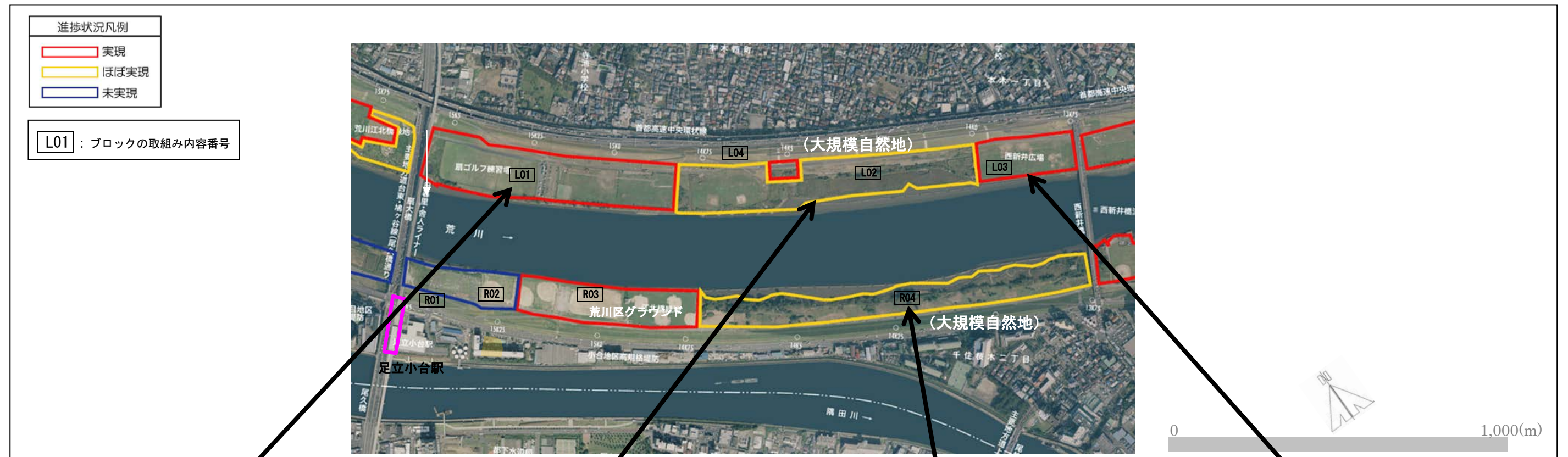
（左岸）

- ・**L01**：扇大橋下流付近の利用施設は水際部の自然度向上、自然地の連続性を確保し他の河川敷利用者へも配慮ある運営を進めていきます。
- ・**L02**：本木ワンドを中心としたこの地区は、自然保全地としてヨシ原等湿地性植物群落を積極的に保全するとともに、部分的には、そこに生息する昆虫、魚類等の小動物とのふれあいや、自然観察等に利用できる空間として整備を進めます。
- ・**L03**：西新井橋上流付近の広場は、現状、少年野球等に利用されているが、将来的には多目的なレクリエーションに活用される広場としていきます。
- ・**L04**：堤防補強工事後の盛土部分を利用した桜（五色桜）の植樹を進めます。

（右岸）

- ・**R01**：日暮里・舎人ライナーの足立小台駅から荒川河川敷へのアクセスを向上させることにより、多くの来訪者が安全且つ快適に利用できるよう検討を図り施設整備を進めます。
- ・**R02**：足立小台駅の直近に位置する扇大橋下流の芝生系広場の形成予定地及び、『あらかじめ福祉体験広場跡地』は多目的地として、その活用検討を進め多くの人に利用される場を創出していきます。
- ・**R03**：その下流は、荒川区のスポーツグラウンドと駐車場が集約的に整備され、利便性が図られています。良好な施設運営を行っていきます。
- ・**R04**：西新井橋上流（千住桜木地区前）の大規模自然地は、自然保全地として現況のヨシ原を中心とする水辺の自然地を積極的に保全するとともに、部分的には自然学習、環境教育等の利用も考慮した整備を進めます。

●ブロック別現況図



●計画イメージ



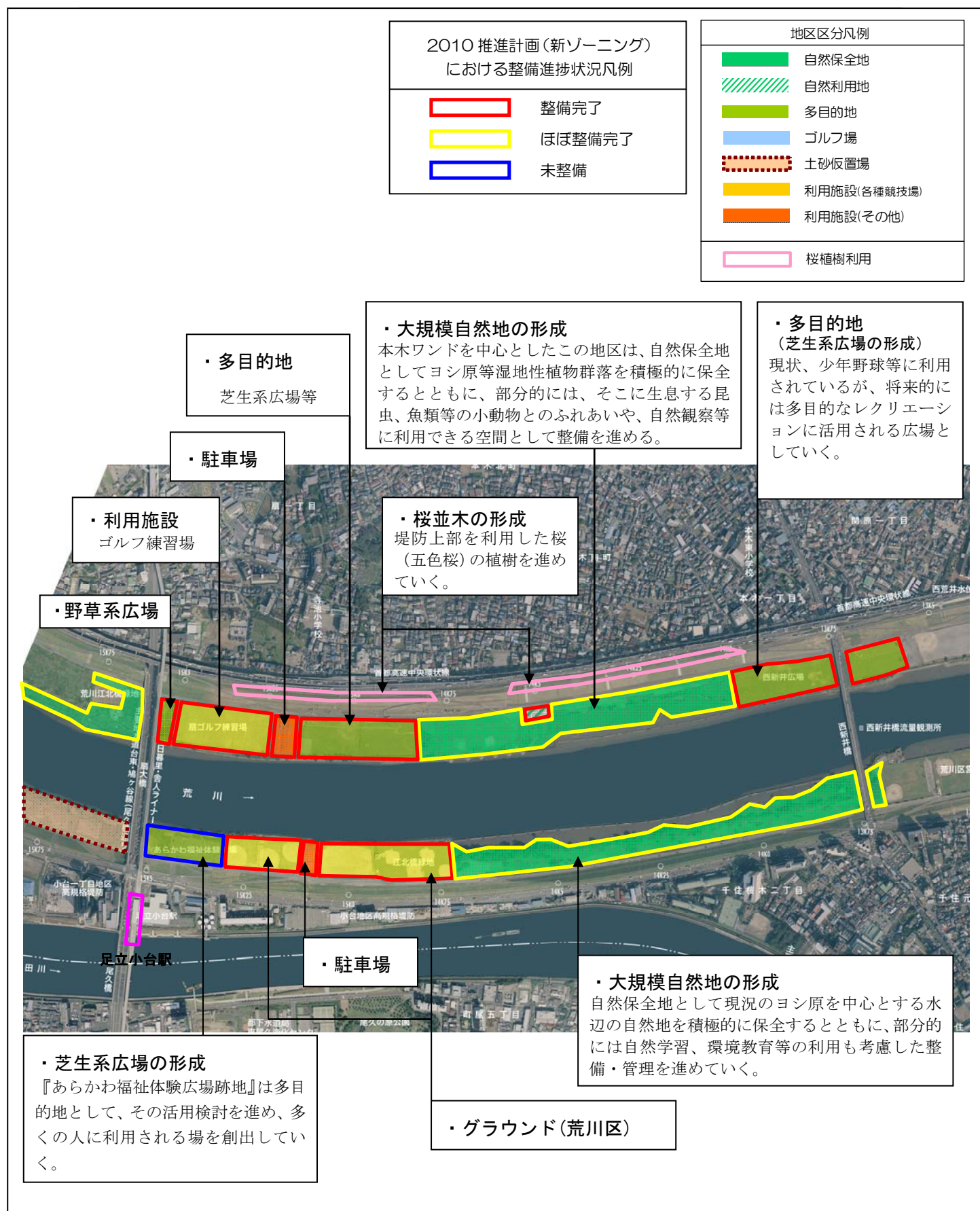


図 26 ブロック別計画図（西新井・本木） 全体イメージ

(4) 大川町・梅田ブロック

1) ブロックの概況

- ・西新井橋から千住新橋までに位置する本ブロックは、左岸は梅田地区、右岸は大川町地区(千住大川町、千住元町)となっています。
- ・堤内地は両岸とも住工商が混在した過密市街地となっています。
- ・河川敷は野球場や多目的広場などスポーツグラウンドが多いブロックとなっています。
西新井橋、千住新橋周辺の水際部にまとまったヨシ群落が見られます。
- ・荒川へのアプローチは、西新井橋(尾竹橋通り)、千住新橋(日光街道)からとなります。
- ・河川敷は両岸とも草原と野球場等のグラウンドが連続しています。毎年、夏には「足立の花火」が開催されます。水際部は干潟にヨシ群落が点在しており、西新井橋、千住新橋周辺は比較的連続したヨシ群落が見られます。河川敷は両岸とも全域が避難場所に指定されています。
- ・震災時に荒川を復旧資機材や救援物資の輸送路として確保するため、堤防脇に緊急用河川敷道路が整備され、普段は散歩やジョギング、サイクリングなどで親しまれています。
- ・防災用緊急情報ネットワークの整備の一環として、左岸側の河川敷には光ファイバーが敷設されています。



大川町・梅田ブロック付近の荒川（12.5km～14.0km）

2) これまでの成果

〈これまでの成果〉

治水対策として、「堤防の耐震性向上及び緩傾斜化」、河川敷利用のため「芝生系広場の形成」、「野球場」及び、施設利用者用の「駐車場の整備」、自然地の向上として「中規模自然地の形成」が、進められました。

しかし、一部の「堤防の耐震性向上及び緩傾斜化」、また、「水際線の整備」が、未整備の箇所があります。

〈取り組み課題〉 ・ ・ ・ 短期計画の点検結果から得られた課題 ・ ・ ・

〔堤防の耐震性向上及び緩傾斜化〕

堤防の耐震性向上及び緩傾斜化については、順次計画的に整備を進めていますが、このブロック右岸、千住新橋上流側付近では未整備の部分があります。また、この付近の堤防斜面にある階段には手摺が設置されておらず、スロープを含めたバリアフリー化整備が必要な箇所です。

〔水際線の整備〕

西新井橋、千住新橋周辺の水際部にまとまったヨシ群落が見られますが、保全のための航走波対策が必要です。

また、前述以外の部分についても従前の直壁護岸等の形態であり、水際部の自然度アップを図っていく必要があります。

●1996 足立区地区計画図

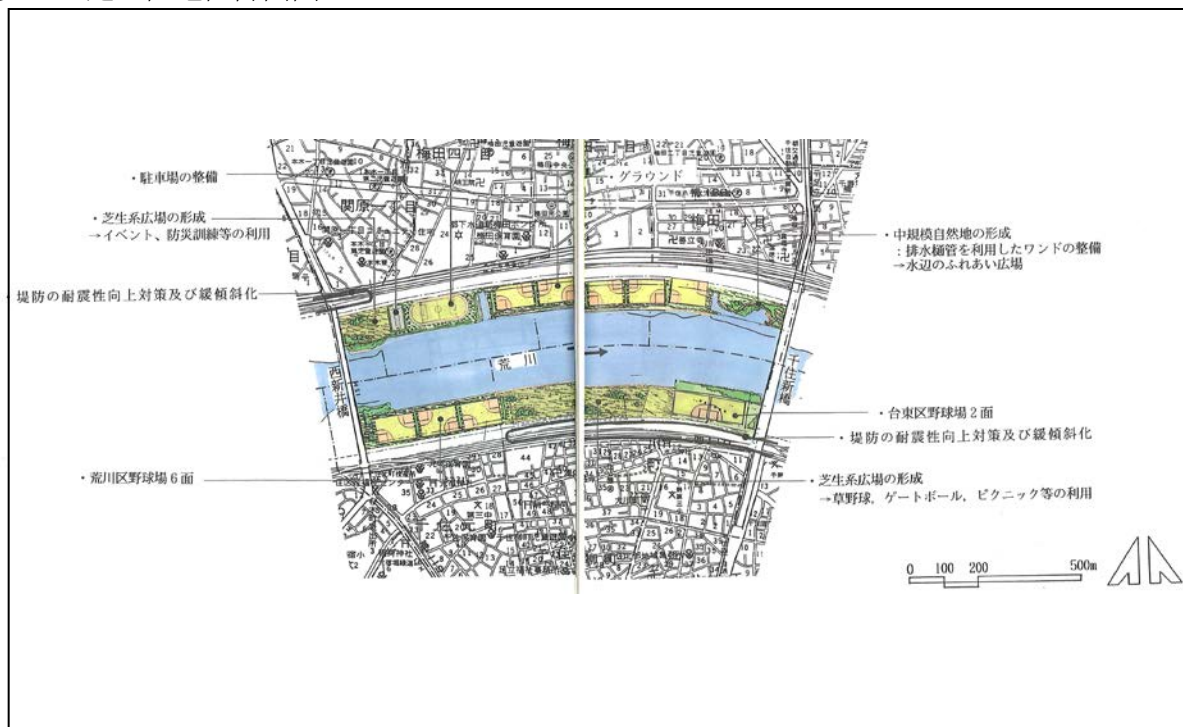


図 27 1996 足立区地区計画 (大川町・梅田ブロック)

●進捗状況図

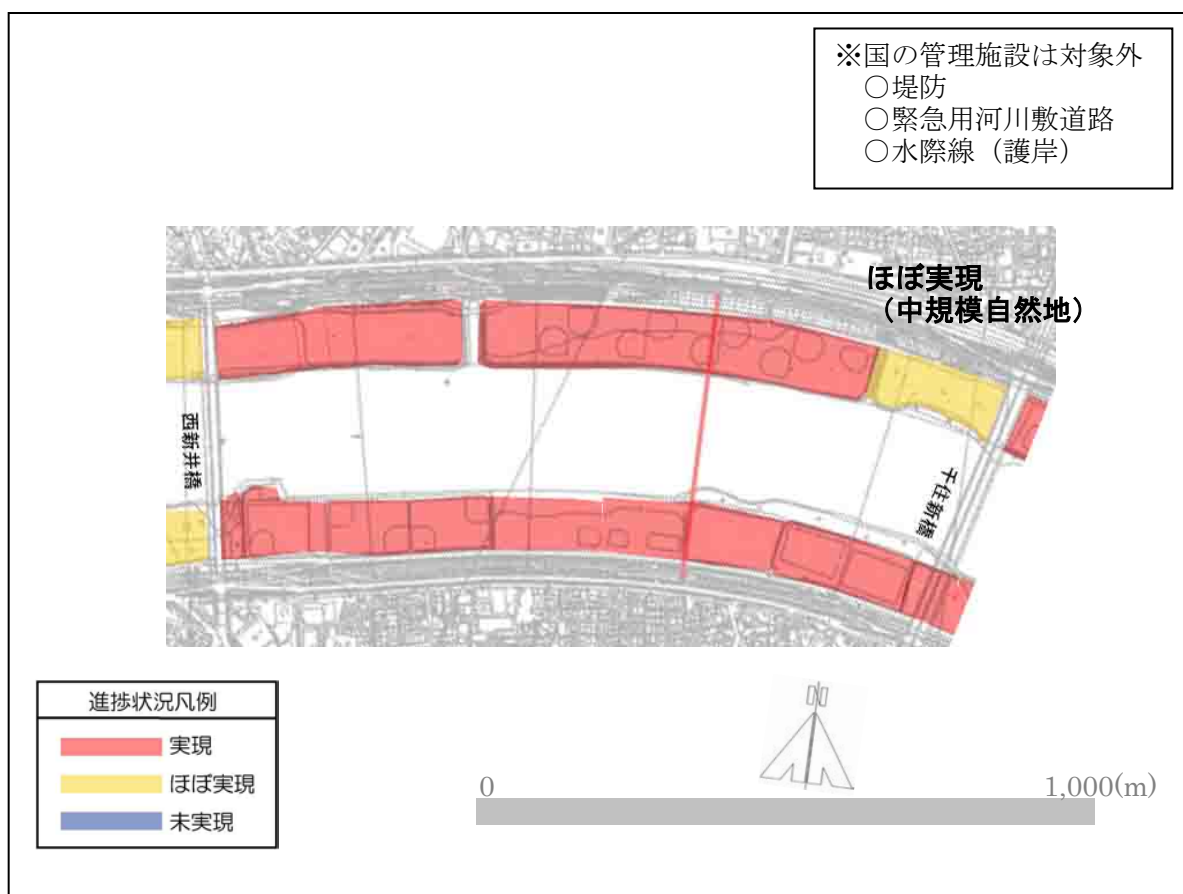


図 28 進捗状況図 (大川町・梅田ブロック)

3) 新ゾーニング（2010 推進計画のゾーニング）

●推進計画 2010 のゾーニング計画図

荒川将来像計画 2010 推進計画の新たなゾーニング計画は、現状の河川敷利用現況をふまえながら、これから概ね 10 年後の荒川下流部全体の望ましい姿を想定し、河川敷を流下方向に「自然系ゾーン」、「利用系ゾーン」の 2 つに大別して、緩やかな土地利用誘導を図っていくこととします。

「自然系ゾーン」は主に自然地の適切な維持管理を前提として保全を図っていくゾーン、「利用系ゾーン」は主にスポーツグラウンドやゴルフ場、公園・緑地等の適切な利用を図っていくゾーンとします。

●大川町・梅田ブロックゾーニング計画図



●1996 年計画からの主な変更点

このブロックでは、1996 年計画の土地利用ゾーニングからの大きな変更はありません。

4) ブロック別計画

〈ブロックの目標・整備方針〉

- ・野球場等のスポーツグラウンドの適切な管理を行うとともに、自然度の向上を図ります。
- ・水際部には、周辺自然地との連携化を図った自然度の高い空間を創出するとともに、河川敷利用施設の水辺らしい空間利用を図ります。

〈ブロックの取り組み内容（目標年次：概ね 10 年後を目指します）〉

（左岸）

- ・ **L01**：野球場等のスポーツ施設は、その良好な施設運営を進めていきます。また、グラウンド間への灌木等の植栽により自然度の向上及び、その維持を図っていきます。
- ・ **L02**：千住新橋上流付近水際部のヨシ原等湿地性植物群落を保全し、自然観察等に利用できる空間とします。

（右岸）

- ・ **R01**：荒川区、台東区の野球場等スポーツ施設は、その良好な施設運営を進めていきます。また、グラウンド間への灌木等の植栽により自然度の向上及び、その維持を図っていきます。
- ・ **R02**：水際部のヨシ原等湿地性植物群落を保全し、上下流部の自然地との連携化を図ります。
- ・ **R03**：大川町緑地は、現状、少年のサッカー等に利用されているが、将来的には開放的な河川景観を活かし、利用系多目的地の芝生系広場として、レクリエーション利用を図っていきます。また、低木、灌木等の植栽を行い自然度の向上を進めていきます。
- ・ **R04**：地震時に堤防が大きく崩れ、市街地に被害を及ぼすことがないように、堤防の耐震性向上対策を行うとともに、堤防の川表側の緩傾斜化と緑化を行い、堤防と河川敷が一体となった親しみやすい空間を創り出します(なお、対策実施区間の延長は、詳細な地盤調査を行ったうえで決定することとしています)。また、合わせてスロープや手摺などによるバリアフリー化も検討していきます。

●ブロック別現況図

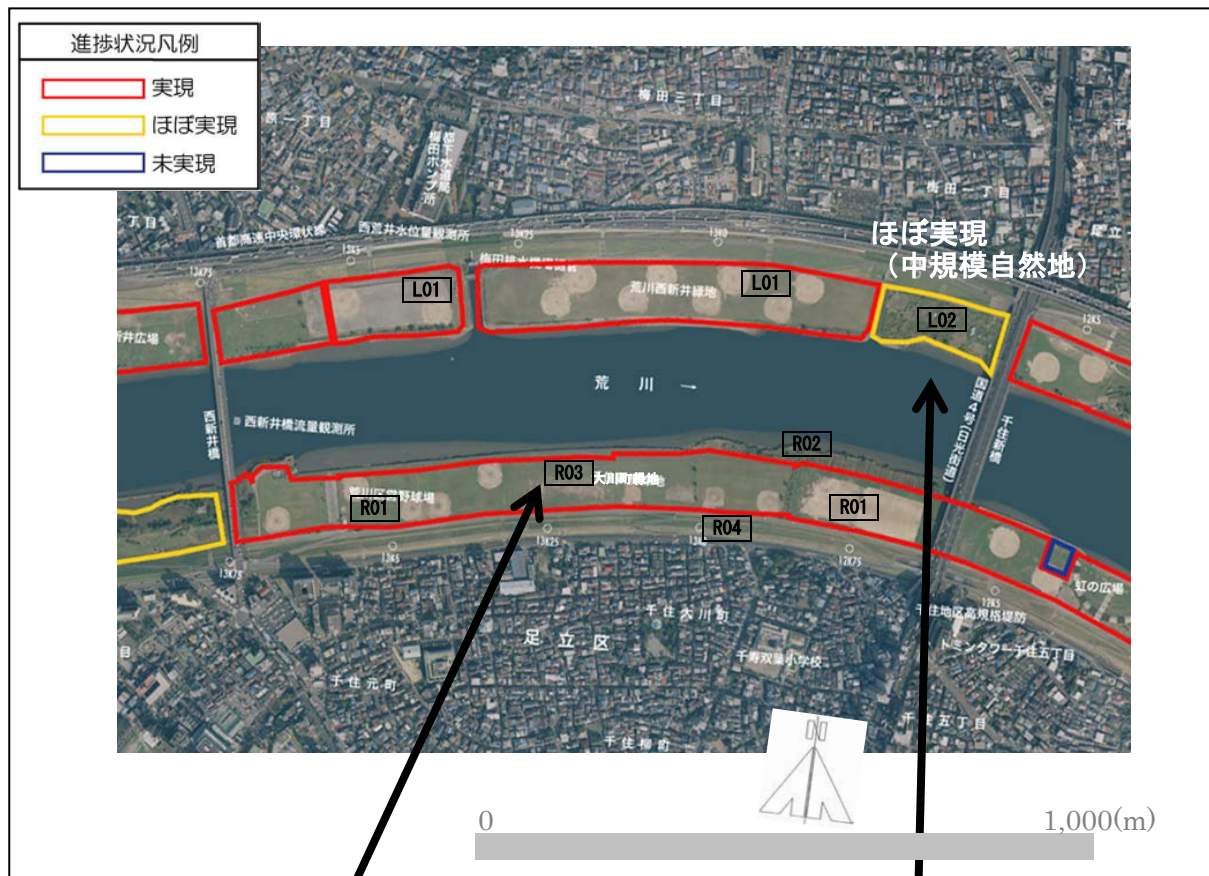


図 30 ブロック別現況図（大川町・梅田ブロック）

●整備計画イメージ



図 31 整備計画イメージ

●ブロック別計画（大川町・梅田） 全体イメージ



図 32 ブロック別計画図（大川町・梅田） 全体イメージ

(5) 日の出・足立ブロック

1) ブロックの概況

- ・千住新橋から堀切橋下流まで(左岸は東武線鉄橋下流まで)に位置する本ブロックは、左岸は足立地区、右岸は日の出地区(千住五丁目、日の出町、柳原一、二丁目)に面しており、それぞれ葛飾区、墨田区に接するブロックです。
- ・荒川へのアプローチは、千住新橋(日光街道)、小菅駅、堀切駅(東武伊勢崎線)、関屋駅(京成本線)、北千住駅(常磐線、千代田線等)からとなります。
- ・左岸側は住工が混在した地区、右岸側は隅田川に囲まれた千住宿等、商業を中心に古くから栄えた地区で現在も商業地域であり、いずれも過密市街地となっています。
- ・千住新橋から常磐線鉄橋までの左岸側は水際部にはワンドが整備され、河川敷には湿地性の緑地が広がっています。対岸は堀切橋まで野球場などのグラウンド、草原の多目的広場が続き、護岸前面にヨシ群落が見られ、釣り人も多いエリアです。
- ・鉄道橋等から多くの人が荒川を認識する場所です。
- ・千住新橋右岸には、平成12年に生涯学習総合施設「学びピア21」が建設され、足立区の荒川散策の拠点として施設内に「荒川ビジターセンター」が併設されました。荒川の自然紹介や各種イベントなど、解説員が常駐し活動しています。
- ・震災時に荒川を復旧資機材や救援物資の輸送路として確保するため、堤防脇に緊急用河川敷道路が整備され、普段は散歩やジョギング、サイクリングなどで親しまれています。
- ・緊急用河川敷道路と連携して災害復旧活動の拠点となる「足立リバーステーション」が整備され、普段は水上バスや河川工事の資材運搬基地として活用されています。
- ・防災用緊急情報ネットワークの整備の一環として、河川敷には光ファイバーが敷設されています。また、河川敷は全域が広域避難場所に指定されています。



日の出・足立ブロック付近の荒川 (10.5km～13.5km)

2) これまでの成果

〈これまでの成果〉

河川敷利用のため「グラウンドの整備」及び、施設利用者用の「駐車場の整備」、「芝生系広場の形成」、「駐車場」、「虹の広場」、治水対策として、「堤防の耐震性向上及び緩傾斜化」、「船着き場の整備」、自然地の向上として左岸の「野草地、ワンドの形成」が、進められました。

また、荒川に親しんでもらう拠点として「荒川ビジターセンター」が整備され、情報発信や各種イベントが実施されています。

しかし、一部「堤防の耐震性向上及び緩傾斜化」、「野草系広場、ワンド」、「水際線」、右岸の「船着き場」が、未整備の箇所があります。

〈取り組み課題〉 ・ ・ ・ 短期計画の点検結果から得られた課題 ・ ・ ・

〔堤防の耐震性向上及び緩傾斜化〕

右岸の京成本線鉄橋付近では、堤防高が一部不足している部分があります。鉄道事業者及び関係機関と調整を図り改善整備を行っていく必要があります。

〔野草系広場、ワンド等の整備〕

左岸側で既に整備済みの五反野ワンドでは、その活用が図られています。一方、下流側の鉄道橋に挟まれたエリア及び、右岸の同様箇所付近については野草地とワンド等の整備による自然地の形成とされてきましたが、輻輳する鉄道橋との位置関係などを考慮すると、今後の整備にあたっては整備形態の再検討が必要と考えられます。

〔水際線の整備〕

右岸日の出緑地の水際部には、まとまったヨシ群落が見られますが、保全のための航走波対策が必要です。また、既に整備済みの五反野ワンド付近の水際部についてもその良好な維持を図っていく必要があります。

前述以外の部分については従前の直壁護岸等の形態であり、水際部の自然度アップを図っていく必要があります。

〔船着き場〕

左岸東武線鉄橋下流側には国土交通省により「足立リバーステーション」が整備され活用されていますが、右岸虹の広場前の船着場については未整備です。

●1996 足立区地区計画図

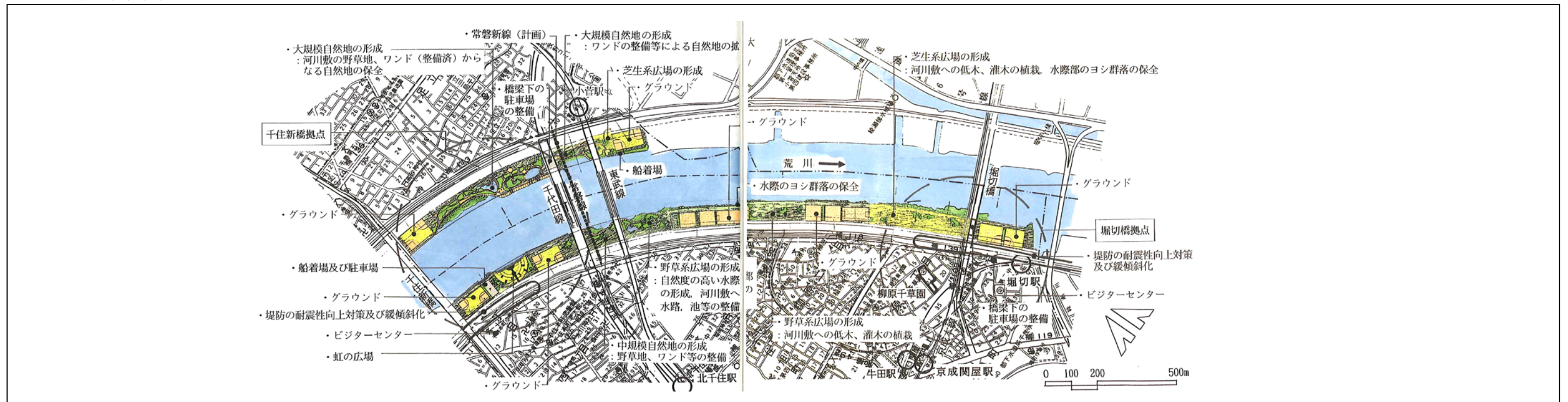


図 33 1996 足立区地区計画（日の出・足立ブロック）

●進捗状況図

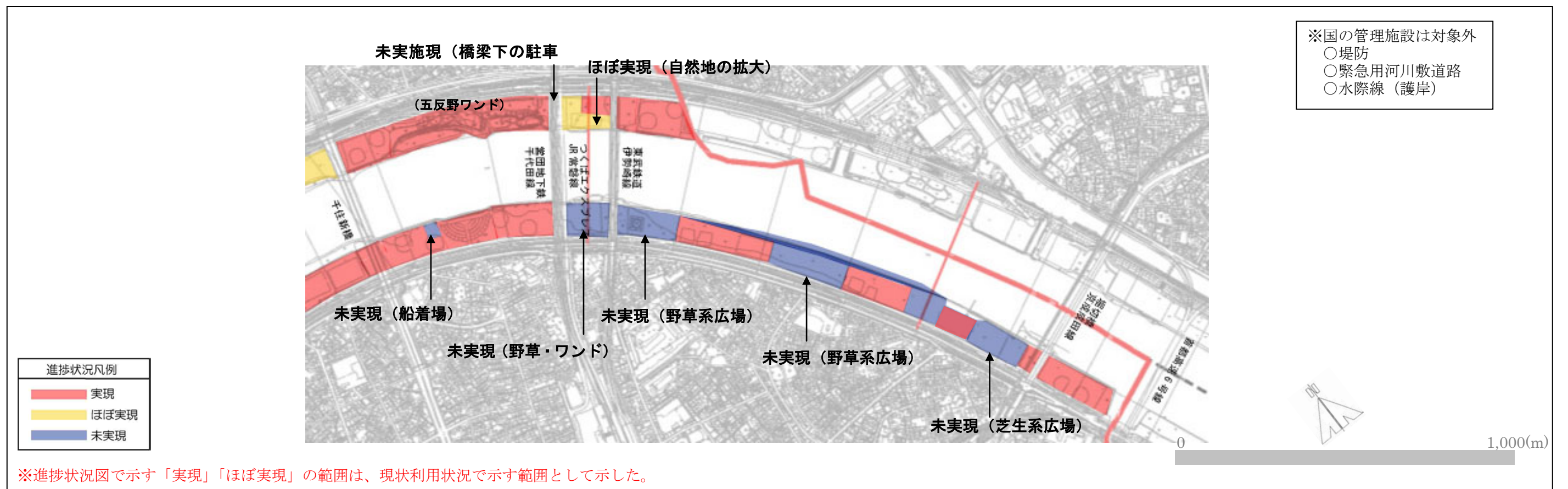


図 34 進捗状況図（日の出・足立ブロック）

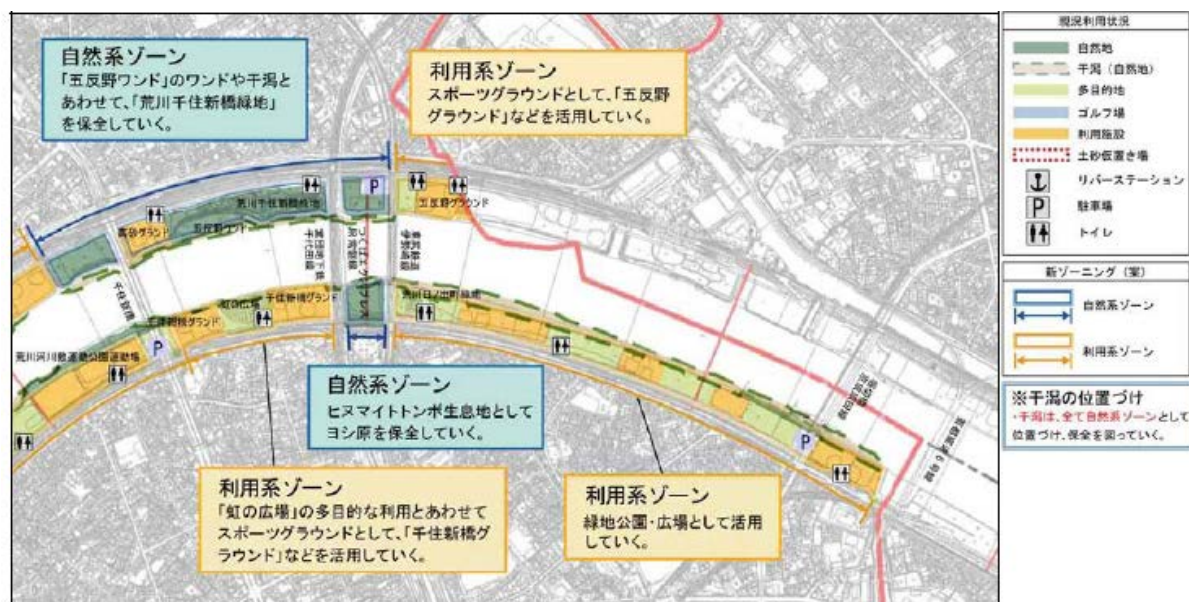
3) 新ゾーニング（2010 推進計画のゾーニング）

●推進計画 2010 のゾーニング計画図

荒川将来像計画 2010 推進計画の新たなゾーニング計画は、現状の河川敷利用現況をふまえながら、これから概ね 10 年後の荒川下流部全体の望ましい姿を想定し、河川敷を流下方向に「自然系ゾーン」、「利用系ゾーン」の 2 つに大別して、緩やかな土地利用誘導を図っていくこととします。

「自然系ゾーン」は主に自然地の適切な維持管理を前提として保全を図っていくゾーン、「利用系ゾーン」は主にスポーツグラウンドやゴルフ場、公園・緑地等の適切な利用を図っていくゾーンとします。

●日の出・足立ブロックゾーニング計画図



●1996 年計画からの主な変更点

左岸、千住新橋下流付近はゾーニング的には自然系であるが、土地利用として一部グラウンド利用としている部分があります。

4) ブロック別計画

〈ブロックの目標・整備方針〉

- ・千住新橋下流は、都市的な水辺と自然性豊かな水辺の創出により、地域性を反映した多様な水辺空間を演出します。
- ・交通機関の利便性を活かし、堤内地との一体的な整備により、水辺へのアクセスの向上とともに、市街地の快適なオープン空間としての充実を図ります。

〈ブロックの取り組み内容（目標年次：概ね10年後を目指します）〉

（左岸）

- ・**L01**：千住新橋下流のグラウンド(高砂野球場)は、上下流の自然系ゾーンに挟まれており、ゾーンの連続性に配慮した自然度アップを図っていきます。
- ・**L02**：整備済みの五反野ワンド一帯は、ヨシ原等湿地性植物群落を中心とした自然地を積極的に保全していくとともに、自然利用地として自然観察等活用を図っていきます。
- ・**L03**：さらに、常磐線鉄橋下流部につづく自然保全地については、水際部のヨシ原等湿地性植物群落を積極的に保全していきます。今後、このエリアの整備を行う際には整備形態の再検討を行っていきます。

（右岸）

- ・**R01**：千住新橋下流は虹の広場、野球場を中心とした都市的な水辺空間としての利用を図り、荒川ビジターセンターの活用を進めていくとともに、北千住駅周辺の中心市街地からのアクセスを考慮した賑わい空間を形成していきます。
- ・**R02**：常磐線鉄橋と東武線鉄橋の間は、野草系の自然保全地の形成を図り、周辺環境等を考慮して従来のワンド等の整備については再検討を進めます。また、その下流部には、基本的には野草系広場を形成し、水際部整備を行うにあたっては上下流との連続性を考慮した水辺環境を創出していくよう検討していきます。
- ・**R03**：グラウンドや広場が混在する東武線鉄橋より下流部は、低木、灌木等の植栽により、自然度の向上を図ります。また、現況水際部のヨシ群落を保全するとともに、野草系広場を整備します。
- ・**R04**：地震時に堤防が大きく崩れ、市街地に被害を及ぼすことがないように、堤防の耐震性向上対策を行うとともに、堤防の川表側の緩傾斜化と緑化、バリアフリー対応を行い、堤防と河川敷が一体となった親しみやすい空間を創り出します(なお、対策実施区間の延長は、詳細な地盤調査を行ったうえで決定することとしています)。

●ブロック別現況図

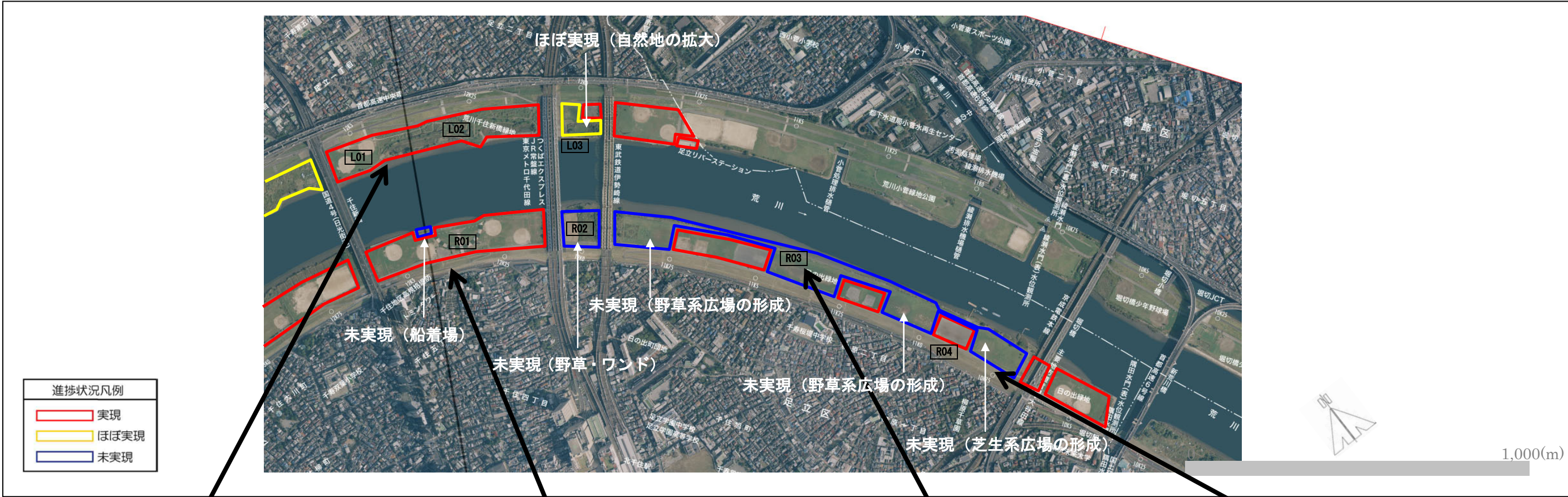


図 36 ブロック別現況図 (日の出・足立ブロック)

●整備計画イメージ

・大規模自然地の形成

五反野ワンド一帯は、ヨシ原等湿地性植物群落を中心とした自然地を積極的に保全していくとともに、自然利用地として自然観察等への活用を図っていく。

・虹の広場、ビジターセンター

千住新橋下流は虹の広場、野球場を中心とした都市的な水辺空間としての利用を図り、荒川ビジターセンターの活用を進めていくとともに、北千住駅周辺の中心市街地からのアクセスを考慮した賑わい空間を形成していく。

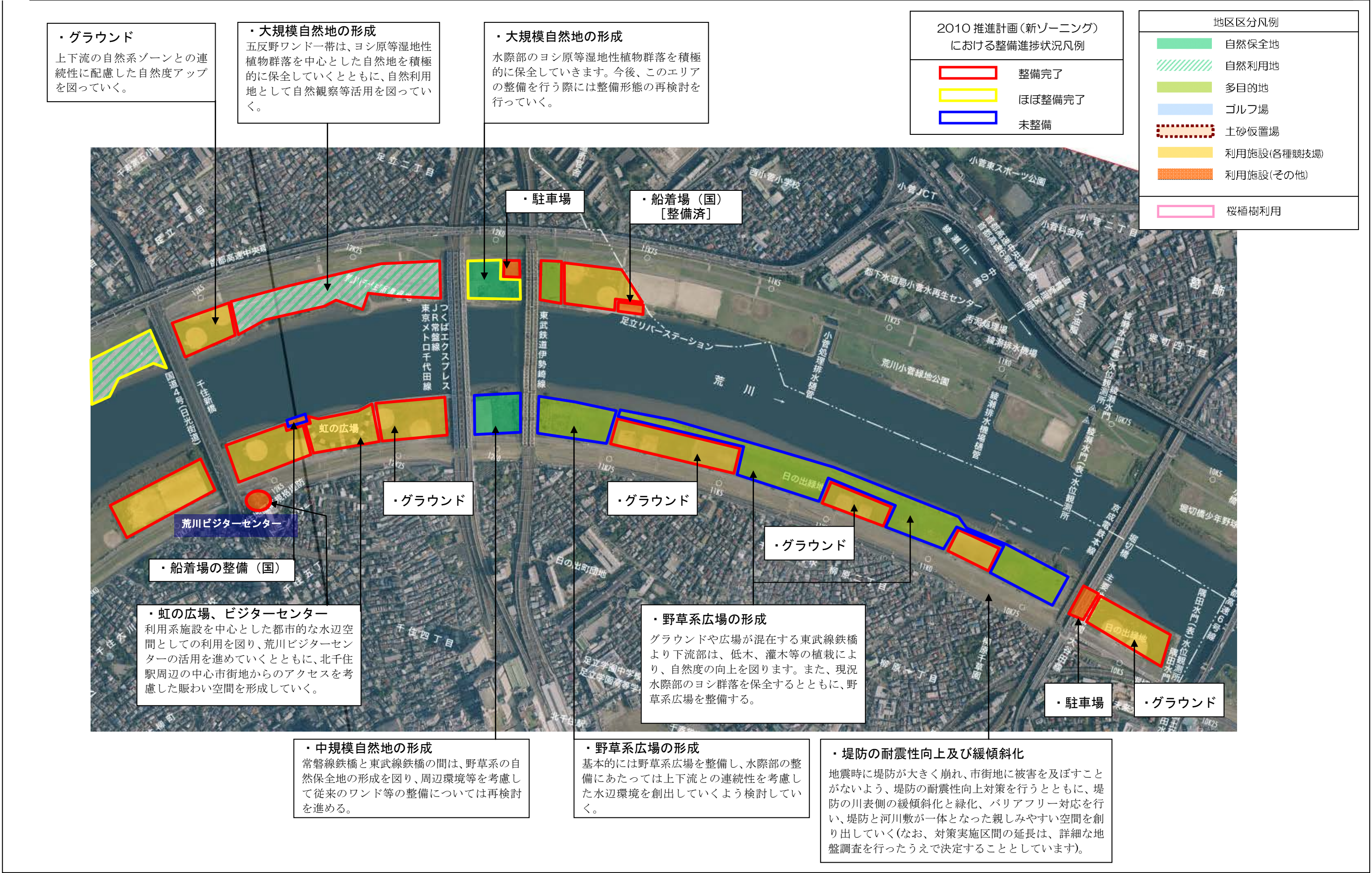
・野草系広場の形成

グラウンドや広場が混在する東武線鉄橋より下流部は、低木、灌木等の植栽により、自然度の向上を図ります。また、現況水際部のヨシ群落を保全するとともに、野草系広場を整備していく。

・堤防の耐震性向上及び緩傾斜化

地震時に堤防が大きく崩れ、市街地に被害を及ぼすことがないよう、堤防の耐震性向上対策を行うとともに、堤防の川表側の緩傾斜化と緑化、バリアフリー対応を行い、堤防と河川敷が一体となった親しみやすい空間を創り出していく。

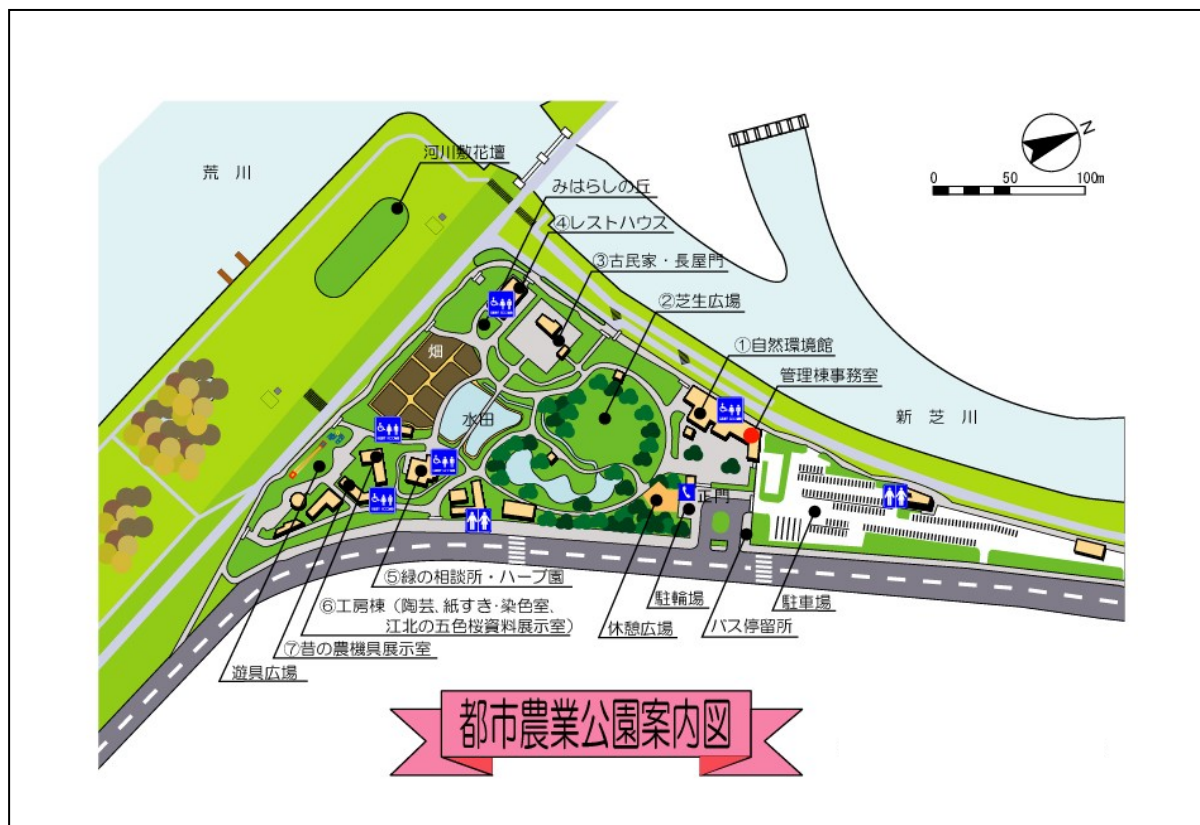
図 37 整備計画イメージ



2.5 地区の取組み事例

1. 都市農業公園
2. 新田わくわく♡ 水辺広場
3. 平成五色桜
4. 足立区荒川ビジターセンター
5. 五反野ワンド

●都市農業公園



鹿浜橋左岸上流に位置する都市農業公園は、当初(昭和59年)、失われつつある足立区の農業の姿を残し、農業に親しむことによって自然とのふれあいを大切にし、同時に農業者との交流を図っていくことを目的として造られました。

その後、公園に隣接する荒川の堤防をスーパー堤防化する話が持ち上がり、公園面積の半分以上が影響を受けるため、全面的な改良を行い、平成7年10月にリニューアルオープンしました。

都市農業公園は「自然と遊ぶ、自然に学ぶ、自然と共に生きる」をテーマに、春は五色桜やチューリップ、秋にはコスモスなどの四季折々の花を楽しむことができます。さらに、自然とふれあう機会として水田や畑を利用した農作業体験教室を実施。併設する緑の相談所では、ハーブ教室や植物に関する相談・講習会、自然環境館では、公園内や荒川・芝川などの自然を紹介したり、草木を使った工作などが体験でき、身近な自然や生き物について楽しみながら学ぶことができます。

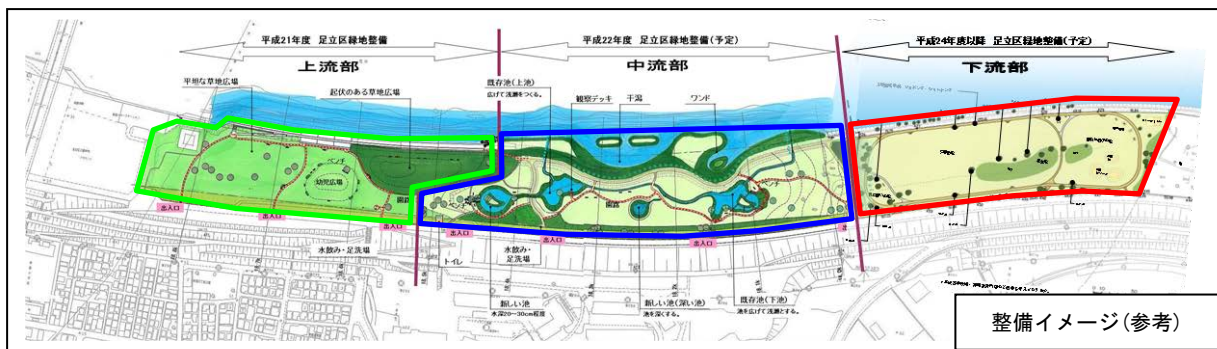
また、スーパー堤防の最上段にあるレストランは、荒川の水面を始めとして晴れた日には遠く富士山まで展望できる、来園者や荒川を利用する人たちの休憩施設となっています。

公園では、「春の花祭り」や「秋の収穫祭」など年間を通じて各種イベントを実施しており、平成21年度には年間来園者数が約29万人にのぼっています。



河川敷花壇（チューリップ）の様子

●新田わくわく♡ 水辺広場



新田二、三丁目付近の荒川河川敷は、昭和 32 年から河川敷を利用したゴルフ場として長年多くの区民、都民に利用されてきました。

しかし、ゴルフボールが河川敷利用者にあたる事故をきっかけに平成 19 年 4 月で鹿浜橋より下流側のゴルフコースの営業を廃止しました。

ゴルフ場の跡地については一部新たにゴルフ練習場として利用する案も出されましたが、地元地域の合意を得られる利用案ではなかったため、最終的には跡地を上流部、中流部、下流部の 3 つのエリアに分け、「都民ゴルフ場跡地利用整備検討会」の中で整備形態の検討が重ねられてきました。

平成 22 年 4 月、上流部が、平坦な草地の広場と、昆虫が生息しやすい高い背丈の草地を中心とした緑地として整備されオープンしました。隣接する新田リバーステーションとの位置関係から防災拠点としての機能も考慮し、かまどベンチや、車いすの方でも親水テラスの水際まで入れるようバリアフリー対応の通路も整備されました。

平成 23 年 5 月、中流部の整備が完了しました。中流部は、既存の池を含め 4 池を小路でつなぐなど、動植物の住息環境を確保しつつ、緑地施設が設置されています。生物の棲みかや休息場所を確保しながら、訪れる人々が水辺に親しみ、楽しめる緑地になっています。

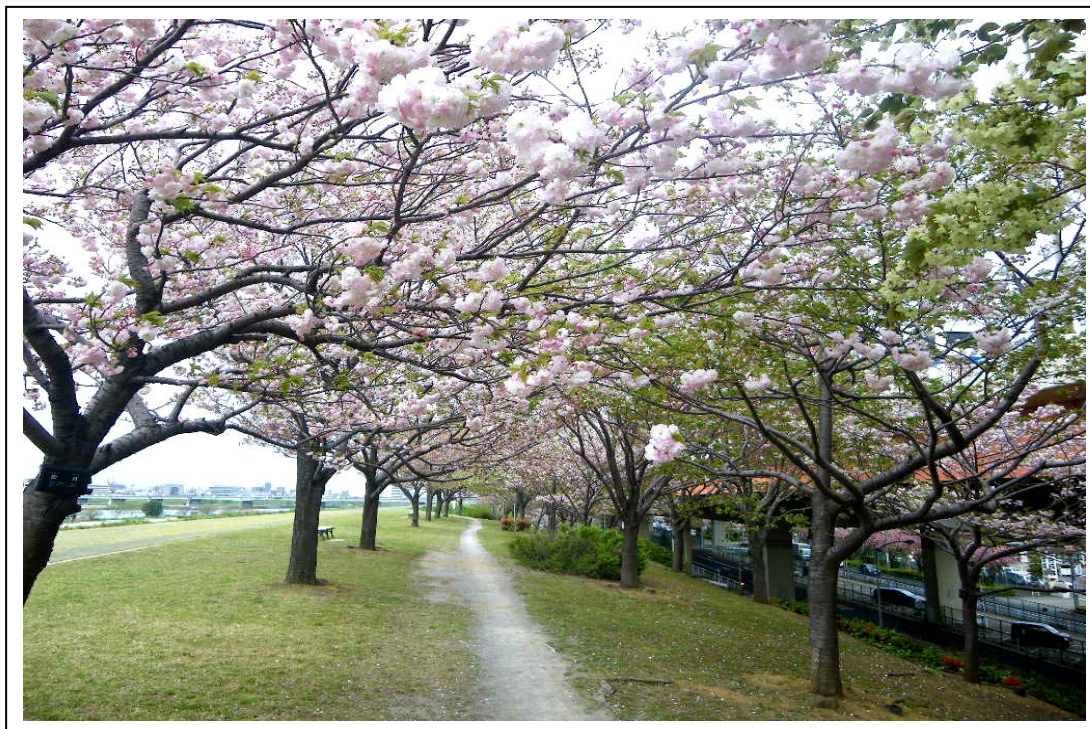
そして下流部については、現在の地形や樹木を活かし多目的地として、散策やピクニックなどレクリエーションに活用できる草地系広場として整備される予定です。

「新田わくわく♡ 水辺広場」は全体で 10.8ha の広大な面積を有する緑地です。その管理は足立区と地元の方の協力により進めていきます。

ゴルフ場の廃止を契機に荒川の自然と利用に関心を寄せる多くの人々の声がこの緑地整備を生み出しました。「新田わくわく♡ 水辺広場」は荒川を放水路から川らしい水辺へ、とする「荒川将来像計画 2010 推進計画」のスローガンの狙いを先駆的に示しながら育ち始めようとしています。



●平成五色桜



(平成3、5年植栽〔モデル事業〕箇所の現在の様子)

足立区内の荒川左岸は、「江北の五色桜」として明治19年から植栽がはじまり、多様な色の花を楽しめる桜の名所として多くの人々に親しまれていました。

しかし護岸工事や大気汚染により徐々に衰退し、戦後は蒔として使用されるなど、五色桜は時代とともに姿を消してしまいました。

その後、足立区の環境はめまぐるしく変化し、五色桜を知る人々や、実際に見ていた人も少なくなり、文献や写真のみで知る人々がほとんどとなりました。

この度、平成20年から平成32年（予定）までの期間で、五色桜を今ある環境のなかで桜つつみとして復活させる計画がスタートしました。

「足立区 平成五色桜」として、大正期の調査記録をもとに明治期に植栽されていた97品種のうち、現存する49品種を用いて植栽当時の面影を受け継ぎながら、荒川左岸の都市農業公園付近から西新井橋付近までの4.4kmに及ぶ長大な桜つつみを再現するものです。

植栽当時の品種は、4月上旬から中旬に咲く里桜が比較的多く、この度の計画でもそれらを中心とした桜つつみを創出していきます。区民、事業者等と行政がそれぞれの役割をはたしながら協働で桜つつみを育むことにより、足立区はもとより東京の観光スポットの一つとなる名所づくりを目指していく事業です。



平成22年度植栽箇所の様子

●足立区荒川ビジターセンター

足立区では、荒川を自然総合公園と捉え、ビジターセンターを保全と住民の利活用のための施設として、拠点ごとに設置することを平成6年当時、計画として示しました。

しかし、その後の急激な社会経済の変化の中、計画通りのビジターセンター整備を進めていくことは大変厳しい財政状況が続いていました。



こうした中、左岸側の都市農業公園のリニューアルにあわせ、「荒川と生活」をテーマに荒川と区民生活の新たな関わりあい方を模索する活動拠点として「自然環境館」が都市農業公園内に併設されました。

また、右岸では平成12年に千住新橋駅の千寿旭小学校跡地に新規建設された生涯学習総合施設「学びピア21」内に、荒川散策の拠点として「足立区荒川ビジターセンター」が設置されました。この地に設置された足立区荒川ビジターセンターは、足立区内の荒川全体のビジターセンターとして活動しています。

現在、センターでは荒川に関する「インフォメーション」や川あるきなどの「体験型プログラム」の実施、総合学習への対応などさまざまな形で荒川と人とのあり方を考える場の提供に取り組んでいます。自然解説員が常駐し、来館者が荒川への興味を深められるような効果的な展示や解説を行っており、入館者数は毎年2万人以上に上っています。



(写真提供：足立区荒川ビジターセンター)

●五反野ワンド



荒川下流部で最初の多自然型川づくりとして、平成4年（1992年）から建設省（現国土交通省）と足立区の協力により整備されたのが「五反野ワンド」です。

荒川らしい自然植生の景観と、生物の多様性に配慮しつつ、子どもたちの環境教育、自然体験の場として機能する空間づくりを目指して整備されました。ここにはカレーパン池、三日月池の2つのワンドがあり、その後ろにヨシ原等の広がる淡水湿地があり、昆虫たちのすみかである草地も広がっています。

開園から15年ほど経つこのワンド一帯では、足立区荒川ビジターセンターが実施する「川あるき」や荒川に興味のある子どもたちが集まる「荒川探偵団」などのプログラムでも生き物や荒川の自然にふれる場として活用されています。

また、ワンドの周辺やヨシ原にはカルガモやコサギなどの鳥たちが、そしてワンドではマハゼやモツゴ、ボラなどの生き物が見られます。このほかにもたくさんの生物や植物などと出会える場所です。

